事例No.	2833
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	千葉県市原市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・公共施設活用 ・観光

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

ローカル10000プロジェクト千葉県市原市「市原市旧高滝小学校を活用した地域活性化プロジェクト」

出典

地域力創造推進に関する研究会（第5回）

ローカル10,000プロジェクト 千葉県市原市
「市原市旧高滝小学校を活用した地域活性化プロジェクト」

令和2年度採択

【事業背景と課題】

○市原市は進学・就職・結婚を機とした若者・女性の域外流出が多く、特に自然豊かな南部地域の人口減少・少子高齢化が顕著。

○観光入込客数362万人に対し宿泊者数数は30万人。滞在時間の延伸による交流人口の拡大を進める必要がある。

○地域に雇用を生み出し移住・定住につながる環境づくりが必要。

○アフターコロナを見据え新しい生活様式に沿って持続的な集客につながる核となる観光コンテンツの開発が必要。

【事業実施者】 株式会社HAMIRU

【自治体・金融機関の支援内容】

○公費による交付額：

国費（地域経済循環創造事業交付金）：12,500千円

地方費： 12,500千円

○千葉銀行による融資：50,000千円

【取組内容】

○廃校となった高滝湖畔にある旧高滝小学校をリニューアルし、里山の特性を活かしたグランピング施設として、多様な関係者のコミュニティを創造することができる地域未来創造拠点を創り出す。

○市原市の地域食材を活用したバーベキューやマルシェの開催。

○地域の特性を活かした洋菓子の開発、製造、販売を行う。

○地域の事業者と連携した体験型観光を実施。



改修前の旧高滝小学校



グランピング場イメージ



近隣の農園と連携した野菜収穫体験

【地域への貢献】

○市原市の課題である宿泊機能が強化され、新たな観光需要の喚起につながる。

○生産者と消費者をつなぐコミュニティの場となり、経済効果を創出し地域の持続性を高める。

○子育て世代の女性などの雇用を創出し、定住化を促進する。

○様々な情報の発信拠点となり、交流人口・関係人口の拡大を推進する。

○公共資産を公民連携により活用し、地域活性化に寄与する。